

第2回那覇空港調査連絡調整会議 議事概要

1 日 時 平成16年 4月26日(月) 14:00~16:00

2 場 所 沖縄八-バ-ビュ-ホテル 2階 白鳳の間

3 出席者

(1)委員

内閣府沖縄総合事務局開発建設部長	佐藤 浩孝
国土交通省大阪航空局飛行場部長	松本 清次
沖縄県企画開発部長	花城 順孝

(2)内閣府沖縄振興局からの参加

内閣府沖縄振興局振興第三課長	堀川 博
----------------	------

(3)国土交通省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課長	茨木 康男
国土交通省航空局飛行場部計画課空港計画企画官	八鍬 隆

4 次第

(1)開会

(2)出席者紹介

(3)議事

那覇空港の総合的な調査に係る情報提供および意見収集のあり方について(案) <資料-1~資料-5>

事務局より資料説明後、委員より情報提供及び意見収集のあり方についての質疑が行われ基本方針(案)及びスケジュール(案)等が了承された。ただし、PIステップの表現等についてPI対象者に誤解を受けないよう一部修正を行ったうえで実施することとなった。

平成15年度の総合的な調査結果について

- ・調査フロー、平成15年度の実施内容〔沖縄県〕<資料-6-1- , >
 - ・那覇空港の運用実績分析と課題の抽出〔国・大阪航空局〕<資料-6-2>
 - ・航空利用の実態分析〔国・沖縄総合事務局〕<資料-6-3>
 - ・航空サービスの現状及び望まれるサービス水準〔沖縄県〕<資料-6-4>
- 事務局より資料説明後、委員より調査内容等について質疑が行われた。

平成16年度の総合的な調査実施内容(案) <資料-6-4>

事務局より資料説明後、委員より調査内容等について質疑が行われ、案に従って進めることが了承された。

(4)閉会

5 主な発言内容(順不同)

(1) 那覇空港の総合的な調査に係る情報提供および意見収集のあり方について(案)

(委員) 事業の実施段階になって環境等の問題により事業がスムーズに実施できない事例が全国的にも、また、沖縄県内にも見受けられる。この調査の中では、特に将来懸案になりそうな課題について、早い段階からP Iにより広範な意見を収集して調査に反映し、今後の計画段階並びに事業実施段階等でスムーズに進められるよう沖縄県、大阪航空局、沖縄総合事務局が協働してしっかりとP Iを実施していく必要がある。

(委員) アドバイザリーチームの構成員及び設置・運営はどう考えているのか。

(事務局) 主たるP I対象者が県民をはじめ地域に関りのある団体等であること、また、P I実施主体である那覇空港調査連絡調整会議の事務局である沖縄県が設置運営することがよいと考えている。また、委員の人選については、今後検討していくが、H15年度の検討会のメンバーが考えられるし、その他にも適切な人がいれば選考していきたい。

(委員) 一般の人にも分かり易い内容で情報提供する必要がある。

例えば、この基本方針の中で、「ステップ2：既存ストックの有効活用方策と空港能力の見極め」に続いて「ステップ3：抜本的な空港能力向上方策の検討」と記述しているため、既存ストックの調査が終わってから抜本的対策の調査を始めるような誤解を受ける。

既存ストックの有効活用方策と抜本的な空港能力向上方策の検討は同時に始まっており、また、各調査項目も総合的な調査フロー図ではそれぞれいずれかの検討項目に分けて記述しているが、共通の調査項目も多い。

P Iプロセスは既存ストックの有効活用方策と抜本的な空港能力向上方策の大きな二つの流れに沿ったフロー図にした方がよい。

(事務局) ご指摘のあったことを踏まえ、P I対象者に誤解を受けないようP Iプロセスのフロー図等の表現を修正する。

(委員) 既存ストックの有効活用方策のうち日々着実に出来ることはこの総合的な調査の結果やP Iの結果を待たずに実施していくというようなことが解るような表現に工夫すべきである。

(事務局) 基本方針にもあるように、P Iと意思決定は別と考えている。また、P Iをするがための的確な施策が的確な時期に実施できないというようなことがないよう表現上も含めて十分留意してP Iを実施していく必要がある。

(2) 平成15年度の総合的な調査結果について

那覇空港の運用実績分析と課題の抽出〔国・大阪航空局〕

(委員) 先日も正午頃に空港の状況を見せて頂く機会を得たが、滑走路から離脱する飛行機と滑走路に進入する飛行機とが錯綜するようなことが見受けられた。今後、航空需要が増加した場合にボトルネックとなる施設はどこか。また、空港能力を向上させるにはどこを優先して整備すればよいのか、現段階でどのような感触であるのか分る範囲で結構なので教えて欲しい。

(事務局) ピーク時間帯で滑走路の南側からの着陸時に滑走路占有時間を短縮する必要があり、具体的な方策については今後の調査で明らかにしたい。また、貨物地区

はエアライン上屋と代理店上屋が並列配置になっていることや荷捌場が狭いなど課題があるが、どの程度のサービス水準で判断すればよいかの基準値がないため今後の詳細調査で判断したい。

(委員) ピーク時間帯で固定スポットが足りない、あるいは自由に使えないために航空機の出入りに時間がかかるなどスポットが空港能力のネックになっている気がする。

(事務局) 用地の制約もあるが、今後の調査の中で、運用面での改善策等も含めてスポットの整備計画についても検討する。

航空サービス水準の現状及び望まれるサービス水準〔県〕

(委員) 沖縄への旅行を取りやめた旅行者による損失が年間100億円を超えるとの報告があったが、損失をどこまで計算に入れるかはもう少し検討が必要。供給サイドであるエアラインとしても当然収益を考慮した機材繰りや人員配置をするので必ずしもピーク時の航空需要に全て対応できるわけではない。また、沖縄のピーク時には全国的にもピーク時期でありエアラインがどの路線を優先してどういうふうな機材投入をするかなど他の空港のことも考慮して検討する必要がある。

(委員) 数字として公表すると色々なものが査証されるので留意が必要。先ほどの損失額についても、旅行を取りやめた人が本当に沖縄に来ないのか、来年には来るかもしれないし、延期・前倒して来るかもしれない。数字の根拠はきちっとしておく必要がある。

那覇空港の社会経済的役割の整理〔県〕

(委員) 那覇空港を介した交流による経済波及効果のグラフで、2000年から減額になっている。旅客は増えているはずだが減額になっている要因は何か。

(事務局) 2000年から観光消費額の推計方法が変更になっているため、1999年以前と2000年以降は不連続のデータであり直接比較することはできない。

(3) 平成16年度の総合的な調査実施内容(案)について

地域特性を考慮した需要予測手法の検討〔国・沖縄総合事務局〕

(委員) 将来の需要予測は滑走路増設等の可否を判断する重要な要素であり、県民等も重大な関心を持っている。地域特性を考慮した需要予測手法の具体的な内容について説明して欲しい

(委員) 従来は年間の旅客数や貨物量を予測して、ピーク日集中率から施設計画を立てていたが、この調査の中では、平成15年度に県が検討した地域の将来像を予測に反映することを考えており、今年度は地域の将来像をどういうふうに将来の航空需要予測に反映していくかについて検討していきたい。また、那覇空港の現況をもとに将来の那覇空港のピーク特性を検討し、ピークの谷間をどう埋めていくのかということも検討していきたい。

既存ストックの有効活用方策の検討〔国、県〕

(委員) 抜本的な方策の検討は広範な議論も必要で時間もかかるが、既存ストックの有効活用方策については早く実行できるものはP Iプロセスの第1ステップに盛り込んだ方がよい。また、どこまでをP Iの中で整理するのかよく検討する必要がある。基本的には調査結果はすべてP I対象であるが、大きな枠組みを変えないでいいものは別途考えるべきであり、緊急度の高いものは第1ステップの「既存スト

ックの有効活用方策の基本方針」に盛り込むべきである。

その他〔共通〕

(委員) 平成15年度の調査結果の報告を聞いた印象では非常に専門用語が多く一般の人に分かりにくい。一般の人にも分かりやすい表現でP I用の資料を作成するには時間がかかると思われるので、今年の検討作業はなるべく前倒して実施していきたい。